

「re-plant」

東京藝術大学大学院木彫研究室 足立 哲史

東京藝術大学大学院木彫研究室 海谷 慶

-コンセプト-

今回、「間伐材は不要なもの？」という疑問をもとに、制作を行いました。

間伐材とは大きな木を育てるために間引かれた木々です。

そのため大きくなることはなく、建築用途の材料にも向きません。

間伐材は新たな物「大きな木」を生産するための、犠牲になっていると言えるでしょう。

言い換えるならば、間伐材のおかげで生産活動が支えられているわけです。

極端かもしれませんが、私たちの生活、街の暮らしは、このような間伐材によって支えられている部分もあると言えるのではないのでしょうか。

このようなことから私たちは“間伐材の存在”が街の動力源の一部を担っていると考え、街の動力源を生み出すもの、街のエンジン機構の様なものが、

横浜の街にあると想像し、間伐材を使用して、その一部を表現することにしました。

これは動力機の動きを変化させるピストン・クランク機構をモチーフにしており、横浜の地面から動力が生み出され変化していく様を作品にしています。

plant：植物・装置・工場

re：再び・新たに